
それで、お前は何がしたいんだ？

ネコガエル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

それで、お前は何がしたいんだ？

【Nコード】

N7899Z

【作者名】

ネコガエル

【あらすじ】

奇妙な2人の少年のお話。

「……なあ」

タカがエイを見上げる。

そのこめかみには、銃口。

「それで、お前は何がしたいんだ？」

「さあ」

エイが肩を竦める。

「何がしたいんだろうね」

「お前は、何のために俺を殺るんだ？」

銃を握っているのは、エイだった。

「さあ。何のためだろうね」

「お前は、特に理由もなく、俺を殺るのか？」

「うん。そうみたいだね」

いつ殺られるか分からない状況。

その中で、タカはおびえる事もなく、喋り続ける。

「やるのは、男と女、どっちが好みなんだ？」

「殺るなら、どっちも同じ」

「だったら、俺を殺る前に俺とやらないか」

「お前と、殺る……？」

エイがつと首を傾げる。
すぐに、頷いた。

「別に、いいよ」

「そうか。じゃ、今すぐやるか」

タカがエイを押し倒す。

ガシャン

銃が、エイの手から滑り落ちる。

「あ」

それは、部屋の隅に滑っていった。

エイの体の上を、タカの手が這う。

唇が重なる。

「ん……」

生暖かいものが歯の間を押し開けて、入り込んでくる。

それは、舌に絡みついてきた。

ぞわり

背中を何かがかかけ登る。

独特な快感を伴う奇妙な感覚。

タカを押し退ける。体を離す。

「やるってのは、殺すって意味じゃなかったのか？」

「あれ？勘違いしてたのか？やるってのは……」

エイの耳元で囁く。

「……って意味だよ」

それを聞いても、エイは顔色を変えなかった。

「それも、いいかもね」

「俺と、またやるか」

「うん」

グイッ

エイがタカを引き寄せせる。

肌と肌が、再びぴったりと重なる。

2人の荒い息が、部屋に響く。

「……ねえ」

エイがタカを見上げる。

そのこめかみには、銃口。

「それで、お前は何がしたいんだ？」

「お前を、殺りたいんだよ」

銃を握っているのは、タカだった。

「何で？」

「理由なんか、特にないよ」

「それなら」

全裸のエイがタカを見詰める。

「俺を殺る前に、俺ともう一回、やるっよ」
「それも、いいかもな」

全裸のタカが銃を置く。

濡れた指が、タカの体の上を滑る。

タカの唇が、エイの胸からうなじへと這う。

「あ……………」

体を舐められ、手に力が入る。ぬるり、と指がまた滑る。

腕をタカの背へまわす。腕に力をこめる。

タカの手も、濡れていた。

背中が濡れていく感触に、声が漏れる。

この奇妙な快感に、身をまかせる。

タカの唇が、エイの口までたどり着いた。

舌と舌が、絡み合う。

また、荒い息がこだまする。

(後書き)

「……なあ」

ネコガエルを見上げる。

「それで、お前は何か言いたいんだ？」
「さあ」

ネコガエルが肩を竦める。

「何が言いたいんだろうね」
「お前は、何のためにこんな小説を書いたんだ？」
「さあ。何のためだろうね」
「お前、馬鹿か？」
「うん。そうみたいだね」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7899z/>

それで、お前は何がしたいんだ？

2011年12月25日13時48分発行